

木曾地域 ～ 木曾らしく、農業の個性を高め、伝統食で人をつなぐ ～

■達成指標

重点取組	達成指標	現状 (2016年)	計画 (2021年)	実績 (2021年)	目標 (2022年)
1	新規就農者数(45歳未満・計画期間累計)	8人	10人	15人	10人
	定年等帰農者の数(計画期間の累計)	6人	12人	12人	13人
2	御嶽はくさい出荷量	38.3万c/s	40万c/s	30.6万c/s	40万c/s
	御嶽はくさい出荷額	4億6千万円	5億3千万円	4億3千万円	5億3千万円
	1戸当たり子牛出荷頭数	5.47頭	5.90頭	5.74頭	6.00頭
3	販売額1千万円以上の園芸品目	8品目	9品目	5品目	9品目
	米の1等米比率	63%	85%	79%	90%
4	GIすんきの製造量	0(37.7※)t	48t	27t	50t
	6次産業による商品化数	7	11	11	12
5	野生鳥獣による農作物被害額	17,271千円	13,200千円	12,779千円	12,000千円
	荒廃農地の解消面積	22ha	40ha	13.2ha	40ha
	中山間地域農業直接支払事業による農地等保全活動面積	389ha	389ha	371ha	389ha
	地域ぐるみで取り組む多面的機能支払事業の活動面積	346ha	346ha	271ha	346ha
6	生産性を高める農地の条件整備	814ha	824ha	820ha	829ha
	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	2.4kw	90kw	34.4kw	90kw
	新たに観光資源として整備する農業施設数	—	2箇所	2箇所	2箇所

※2016年にGI登録されたことを想定した場合の推定製造量

重点取組1：木曾農業を支える経営体と人材の確保・育成

○ 就農相談会、移住・定住フェア等での木曾農業の情報発信、PRによる担い手確保対策の推進

(1) 管内高校と連携した「職業としての木曾農業の魅力」説明会等の開催(1校)。

- ・ 「アースかいだ」にて、スイートコーン播種作業等の体験実習を実施した(6月)。
- ・ 木曾青峰高等学校生2学年を対象としたアグリウォッチング(農業法人等見学会)を開田高原「株式会社霧しな」で、工場見学・体験農場視察等を実施した(20人)(10月)。
- ・ 木曾青峰高等学校生2学年を対象とした農業の魅力発見セミナー(伝統野菜料理講習会)を開催し平原シェフによる伝統野菜料理講習、講演を実施した(20名)(11月)。



魅力発見セミナー開田高原そば収穫

(2) 町村、JA、木曾広域連合と連携した移住相談者への就農情報の提供・就農相談の実施による新規就農者の確保

- ・ 就農相談へ対応し相談者の現地視察について対応した(上松町1名、木祖村1名、小諸市1名)(4月～)。
- ・ 町村担当課長会議での情報交換会(5月)、広域連合の移住・定住促進ツアー参加者との面談による情報提供(1名)、マイナビWEB就農相談会in名古屋で法人就農希望者へのWEB相談を実施した(12月)(木祖村)。

(3) 地域おこし協力隊と連携したSNS動画等による木曾農業の魅力発信

- ・ 木曾町の作成した就農者の紹介動画を木曾農業農村支援センターHP でも紹介での活用を依頼した。

○ 里親支援事業等を活用した新規就農者の育成

(1) 里親研修修了生及び青年農業者へ技術・経営力向上へのフォローアップ（3人）

- ・ 新規学卒者（県農大畜産研究科）への訪問による就農支援会議を実施した（木曾町）。
- ・ 新規就農2年目の夏秋イチゴ栽培者への巡回及び現地検討会・反省会を実施した（木曾町）。
- ・ 県サポート事業による就農2年目の繁殖農家への巡回を実施、月1回の支援会議で県専門技術員からのアドバイスによる課題解決への支援を実施した（木祖村）。
- ・ 就農1年目の白菜農家に対し個別巡回を行い、重点チーム会議でJA・町村等と就農状況について情報共有を行った。

○ 農業入門講座（基礎・実践）の開催による定年帰農等の支援

(1) 定年退職者等を対象に農業入門講座を開催し就農に必要な技術習得支援（講座10回）

- ・ 実践講座を7回開催した（延べ44名参加）（JA実践圃場でサヤインゲン、ミニトマト、ヒペリカム、コギク等）。
- ・ 基礎講座を4回開催した（延べ16名）（木曾の農業情勢、野菜・花きの生産状況、病虫害防除の基礎、GAP、鳥獣害対策、土壌診断の実際等）。
- ・ 視察研修会で木曾管内の先進農業者を視察した（7名）。



【農業講座作業の様子】

○ 集落営農組織、作業受託組織の体制強化や法人化の支援

(1) 「農業経営者サポート事業」を活用した営農組織の体制強化と個別経営体の支援

- ・ 王滝村地域農業合理化組合の法人化支援のため、王滝村と支援方法を検討した。
- ・ 「御嶽はくさい」産地の再構築検討会議で、ハクサイ農家を対象とした労働力補完組織についての優良事例の収集と情報共有を図った。

重点取組2：木曾農業ブランドの「御嶽はくさい」、「木曾子牛」の生産振興

○ 意欲ある経営体の育成や高齢農家等への作業支援体制づくり

(1) 労働負荷軽減対策や作業改善による営農体制の強化

- ・ ハクサイ自動収穫機導入検討会（7月）（木曾町）（40名）と、収穫物の品質調査（7、8月）を実施し、木曾農協野菜生産部会反省検討会にて活動を報告した（11月）。



○ 御嶽はくさい農家の経営安定指導

(1) 基幹的な農業経営者の更なる経営発展・技術向上への支援（6人）

- ・ 個別支援対象者4戸に対し、定期巡回等を実施し課題解決のための支援を行った。
- ・ 重点チーム会議等で、支援対象者への指導状況について関係者と情報を共有した（毎月1回）。

○ 御嶽はくさいの品質向上と適正生産及び代替品目の検討

(1) 定期的な病害虫の発生調査等に基づく防除講習会の開催（調査3月～10月3回/月）

- ・ 木祖村、木曾町開田高原にコナガフェロモントラップを設置し、捕殺調査の結果を各地域に掲示するとともに、JA木曾と情報共有を図った（3月～10月/月3回）。
- ・ 新たな病害虫発生予察に活用する「クroppナビ」を木祖村へ設置し、ハクサイ炭そ病発の生子察活用について検討した。
- ・ 品質低下や減収の要因となる課題に対し、技術向上研修会を実施した（ハクサイ病害研修会（4月）（木祖村）、土壌肥料関連講習会による排水オーガーの実演（5月）（木曾町開田）（対象者3名））。
- ・ 木曾農協野菜生産部会技術検討会にて本年の調査内容を報告した（11月）



(2) ハクサイ移植作型の導入による作期拡大と新規導入品目の検討

- ・ ハクサイ移植作型での苗の凍霜害による影響を確認するため、被覆資材下の温度測定を行い、被覆資材の有効性を検証した（4月）。
- ・ JA、野菜花き試験場野菜部と連携し、ネギ・ブロッコリーの栽培試験を実施した。

○ 新規就農者等支援による子牛出荷頭数確保

(1) 畜産クラスター協議会による関係機関と連携した新規就農者等への支援（3人）

- ・ 新規就農者等が行うクラスター事業への支援で、対象者への増頭事業の導入による規模拡大（南木曾町、木曾町）（2名）、機械導入事業・経営基盤拡大促進事業による機械導入で経営強化を行った（2名）（木祖村、南木曾町）。
- ・ クラスター協議会への支援では、事業推進会議（5月）、生産基盤拡大加速化事業説明会（5月、12月）を実施した。
- ・ 木曾町畜産クラスター協議会の設立（8月）、上松町畜産協議会の設立（※R3年3月）、南木曾町繁殖和牛生産振興ネットワーク協議会の計画の変更（7月変更計画認定）への支援を行った。

(2) 木曾優良子牛生産パワーアップ協議会と連携したICT等活用による飼養技術向上

- ・ 繁殖和牛研修会の開催（生産者22名、関係機関7名出席）（11月）と、子牛ジャケットの導入を進めた（12名、20着）（11月）。
- ・ 畜産ICT応援会議が設立（5月）、協議会事業として牛温恵が2台導入された（木曾町）。

○ 稲WCS、草地更新による自給飼料の増産

(1) 稲WCSの安定生産技術の確立と適正生産量の確保（試験圃場1ヶ所）

- ・ 早生専用品種の収量・品質を検討するため、試験圃場を設置（1ヶ所20a）（南木曾町）し、収穫調査（8月）を実施し経済性の検討を行った。

重点取組3：特色ある「稼げる」農業の推進

○ 消費者ニーズに基づく推進品目及び経営モデルの検討

(1) 推進品目のインゲン、小ギク、花木類、エゴマの栽培技術指導による生産拡大の支援

- ・ 花木類ヒペリカムの現地講習会等、コギク現地研修会（4月）、ヒペリカム現地研修会（6月）、サヤインゲン講習会（上松町、木曾町日義、木祖村）（4・6月）
- ・ エゴマの現地試験栽培、エゴマ試験打合せ（4月）エゴマ試験圃準備（5月）、直は講習会（4名参加）（6月）、セルトレイ播種講習会（18名参加）（6月）、定植講習会（20名参加）（6月）間引き講習会（7名参加）（6月）、摘芯講習会（16名参加）（7月）、収穫講習会（13名参加）（10月）、収量調査（10月、11月）を実施した。



(2) 新たな推進品目の啓翁桜の導入へ向けた展示圃等の設置（試験圃場1ヶ所）

- ・ 「啓翁桜」の試験圃場（定植3年目）で収穫試験を実施し、環状剥離（6月）、薬剤処理による花芽形成への効果を確認した（12月）（大桑村）。

○ 農産物直売所、農産加工施設の経営改善と人材育成

(1) エコファーマー認定取得の推進と、組織のGAP導入の支援

- ・ 道の駅日義木曾駒高原の出荷者を対象に、エコファーマーの新規認定者（2名）、更新者（4名）の書類作成支援を実施した。
- ・ GAP導入を希望する等重点指導対象者に対して個別支援を行った（1法人）（木曾町）。

(2) 加工施設を対象としたHACCP導入と、適正な食品表示の支援（研修会1回）

- ・ 食品衛生法研修会を開催し、HACCPの考え方を取入れた安全安心な漬物製造の説明を実施した（20団体 26人出席）（5月）。
- ・ 食品表示の立入調査（3店舗）（6・7月）、道の駅農産物加工組織（木曾町1団体）へ実施した。

○ 害虫防除等栽培管理の徹底と米穀乾燥調製施設の機能強化による1等米比率向上

(1) JA・農業共済組合と連携した産業用マルチロータによるカメムシ防除効果確認

- ・ JAと連携し稲作指導会開催による斑点米カメムシ類防除指導を実施した（6月）。
- ・ 斑点米カメムシ類調査圃を設置（3カ所）し発生状況の調査を実施した。
- ・ 産業用マルチロータによる防除効果について調査結果を水田作検討会で検討した（12月）。

重点取組4：木曾の本物を味わう食と食し方の提供

○ 生産行程管理記録と適正表示の徹底、加工技術の向上

(1) 生産行程管理に基づく生産現地確認と食味のモニター調査によるすんきの品質向上

- ・ すんきブランド協総会、研修会、木曾地域特産加工開発連絡会総会、代表者会議を開催した（5月）。

- ・ すんき製造事業者の現地確認を実施した（25事業者）（11月）。
- ・ すんきモニター調査及び役員会を実施した（意見交換会）（12月）。

○ すんきの原料であるかぶ菜の品質向上・生産拡大校正

(1) かぶ菜安定生産のための病害虫防除指導の実施

- ・ 根こぶ病、白斑病防除指導で播種時期の巡回指導を実施した（9月）。

(2) かぶ菜（信州の伝統野菜）の系統維持と種子生産技術向上への支援

- ・ 採種ほ場の巡回（3回）、細島蕪採種講習会（10・11月）、開田蕪、細島蕪母体の品質記録を実施した（11月）。

○ 6次産業による商品化の推進

(1) 6次産業化に取り組む団体の掘り起こしと事業推進の支援

- ・ 農産物加工組織への6次産業化の相談活動と、個別指導による新商品開発への意識醸成を行った（11月）。

○ 木曾ならではの商品振興及び観光と連携した地域活性化

(1) 学校給食への「木曾牛」提供と、ふるさと納税返礼品への活用等による商品PR

- ・ 学校給食への木曾牛提供のため、栄養士への食育授業用資料の説明を実施（10月）し、学校栄養士の全農長野三岳牧場の視察研修を行った。（11月）

- ・ 「木曾牛給食の日」で木曾牛を提供し食育授業が行われ（小中等18校）（11月・12月）た。南木曾小学校においては、校内放送を活用した食育授業が実施された。

また、SBCテレビで福島小学校2年生の給食風景（ハンバーグ）が放送され生産者の飼育風景や木曾地域の生産者数も紹介された（11月）。



【南木曾中学校給食（木曾牛）紹介パネル】

- ・ 木曾郡再生協事務局会議（8月）、県再生協木曾地方部幹事会（12月）において地元米の「ふるさと納税返礼品」への活用を提案した。

重点取組5：住民参加による元気な村づくり

○ 捕獲・防除・環境整備を組合せた野生鳥獣被害対策支援

(1) 防除対策講習会及び電気柵の効果的な設置・点検による維持管理技術向上の支援

- ・ 防除対策講習会を実施した（大桑村（4・5月）木曾町（4月）、王滝村（5月））。
- ・ 木曾地区野生鳥獣対策協議会主催で、町村を対象にサル用GPS首輪活用の研修会を開催した（8月）。
- ・ 木曾町と連携し、ニホンジカのライトセンサスによる頭数調査を実施した（三岳地区）（10月）。
- ・ 電気柵の効果的な活用のため点検指導を実施した（上松町、木曾町（福島地区、開田地区、三岳地区）、木祖村）（6月～8月）。



○ 荒廃農地解消の取組支援

(1) えごま、花木類、小ギク、そば、雑穀等の作付け支援による荒廃農地の解消

- ・ えごまの生産安定のため、南木曾町、上松町に試験展示圃を設置し試験区ごとの収穫調査等を実施した（2箇所）。
- ・ J Aと連携しヒペリカムの現地研修会（6月）、コギク現地研修会（4・7月）、啓翁桜現地研修会（6・7月）及び花芽調査（12月）を実施した。

○ 中山間地域農業直接支払制度による農地等保全の取組支援とPR

(1) 集落戦略（実質化した人・農地プラン）実現のため町村と連携した協定集落への支援

- ・ 中山間直払い研修会で、協定代表者を対象に集落戦略と人・農地プランの関連について説明した（大桑村）（5月）。

○ 多面的機能支払制度により農地や水路等の保全活動を行う組織への支援とPR

(1) 制度の周知を進め、取り組む組織数の維持及び新たな取組の拡大を支援

- ・ 多面的機能支払制度の周知を進め、途中加入や次期対策からの参加などと呼び掛けた。

(2) 事務手続きに関する研修会、水路等の維持補修に関する講習会の開催

- ・ 事務手続きに関する研修会、維持補修等に関する講習会を開催した。

重点取組6：元気な村づくりのための農地の条件整備と農村資源の活用

○ 中山間地のほ場・用水路・農道整備

(1) 中山間総合整備事業により上松町徳原のほ場整備を完了し、農地整備率向上を推進

- ・ 中山間総合整備事業により、上松町野尻工区 A=5.5ha のほ場整備を実施中

○ 小水力発電施設の整備推進及び技術的支援

(1) 管理運営方法等研修会への参加と各種調整における技術的な支援

- ・ 団体営農業用水路等長寿命化防災減災事業により、南木曾町細野洞地区(32kw)で実施する小水力発電施設整備にむけ、南木曾町に施設建設にあたって等の技術的支援を実施した。

(2) 中山間総合整備事業による上松町吉野の発電施設の建設

- ・ 県営中山間総合整備事業により、上松町吉野工区(132kw)の建設に着手した。
- ・ 団体営農業水路等長寿命化防災減災事業により南木曾町細野洞地区(32kw)の整備を推進した。

○ 農業資産等を観光資源として活用するための案内看板や遊歩道の整備

(1) あやめ公園（木祖村）の遊歩道の整備

- ・ 県営中山間総合整備事業木曾川源流の里地区での実施に向け、計画を策定した。